

### 第3学期始業式式辞（令和6年1月9日）

皆さんおはようございます。新しい年になりました。令和6年の始まりは、大きな地震や、飛行機の事故があり、心配している人も多いと思います。皆さん自身や親戚・知人の方で被害に遭われた方もいるかもしれません。お亡くなりになった方の御冥福をお祈りするとともに、被害に遭われた方に対しまして、心からお見舞いを申し上げます。

今日から私たちは新学期。3年生は、まもなく共通テストです。自分の力が発揮できるよう、体調を整えて備えてください。1、2年生も、それぞれ目標を立てたことと思います。どの学年の人も、2学期の終業式でお話した「時間の大切さ」を理解し、自分で時間を管理・コントロールできるよう、生活習慣を整えてください。

今日は始業式に当たって、言葉について、いくつか話をします。

まず、「負けず嫌い」という言葉。負けるのがいやなら、「負け嫌い」でよいのに、なぜ「負けず嫌い」というのか。「ず」を付けると、意味が反対になってしまうと思っただけです。が、「負けず嫌い」はやはり「負けたくない気持ち」で、辞書によっては、補足説明として、「ず」を挿入して否定を強調している、と書かれているものもあります。

次に、「とんでもない」という言葉。これを丁寧に言おうとして、「とんでもありません」とか「とんでもございません」と言うのは誤りで、正しくは「とんでもないです」や「とんでもないことでございます」。これは、例えば、「みっともない」「かたじけない」を「みっともありません」「かたじけありません」と言わないのと同じです。ただし、「とんでもありません」は、今、広く使われる言葉になっていると書かれている辞書もあります。

もう一つ、「以心伝心」、何も言わなくても心が通じ合うという言葉です。これに漢文のレ点を付けて読むと、「心を以て（もって）心を伝ふ」。よく「以上をもちまして～を終わります」という言葉を聞きますが、これは、腹痛が痛いとか、馬から落馬、机上の上と同じで、言葉が重なっているということになります。「以上をもちまして」ではなく、「これを持ちまして」「以上で～を終わります」と言うと違和感はありません。ただ、言葉は変化していくものなので、「以上をもちまして」も、よく耳にするようになりました。

私は、特に話し言葉では、話し手の誠実さや一生懸命さ、何よりも、話し手の真意が伝われば、細かいことを指摘しなくてもよいのだらうと思っています。

言葉はおもしろい、言葉は変化する、もう一つ、言葉について、皆さんに伝えたいことは、言葉の重さです。SNSの言葉に誘われて、会ったことのない人と約束したり、知らない人の指示に従ったりして、事件に巻き込まれる、また、SNS上の軽率な言葉や匿名の中傷が、大変な事態をもたらす、ということは現に起こっていて、皆さんにも経験があるかもしれません。SNSが盛んな現代を生きる皆さんには、言葉の奥に潜むものや、言葉の本質を見抜く力を持ってほしいし、言葉を使うことへの責任を自覚してほしいと思います。私も、特にメールの言葉には、とても気を遣っています。自分の言葉が、自分の本意でないところで、人を傷つけているようなことがあってほしくないからです。

言葉はおもしろい、言葉は変化する、そして何よりも皆さんに伝えたいのは、言葉の重さです。言葉はなぜ重いのか。それは、言葉がその人の人間性を背負っているからだだと思います。「豊かな人間性」を身に付けてほしいと、私は皆さんに、よくお願いしていますが、その人間性が言葉に乗っかっているのです。

今年も、私たちは言葉を頼りに、自分の思いを伝えます。どうか言葉の重さを知り、思いを本当に伝える言葉を使って、いい1年にしていきましょう。

これをもって、式辞を終わります。